

J A全中 Monthly Report

10月

併せてJ A全中ホームページ (<http://www.zenchu-ja.or.jp/>) もご覧ください。

中家会長 10月定例会見 会長からのメッセージ

中家会長は10月11日、理事会終了後、定例会見を行いました。冒頭、西日本豪雨、台風21号、北海道胆振東部地震で被害に遭われた方々にお見舞いの言葉を述べました。「第4次安倍改造内閣が発足しました。食料安全保障を確立し、農業、地方が持続可能になるよう、現場の実態を踏まえた取り組みを進めてもらいたいと、新たに就任された吉川貴盛農相と意見交換を行いました」とあいさつを述べました。

本来であれば、農家の苦労が報われる秋の収穫ですが、その

ようにならなかった地域も多いです。地元の和歌山県でも台風でミカンの樹が根こそぎ倒され、塩害にも遭いました。改めて、自然の怖さを痛感しました。

J Aは地域に根差した助け合いの組織です。北海道の地震では、酪農を扱う多くのJ Aにおいて、停電で搾乳ができない組合員の牛舎をJ A職員が発電機を持って、徹夜で巡回しました。職員も被災している中での対応に深く敬意を表したいです。J Aは地域に不可欠な組織として、1

日も早い被災地の復旧復興に取り組んでまいります。

J Aの使命は、安全・安心な農産物を安定的に届けることです。一時的とはいえ災害で一部の農畜産物が品薄になったことは残念です。価格高騰ばかりが目立っていますが生産者の手取りが増えるわけではなく、種をまいても収穫できないつらいことなのです。災害に遭うと復興するのに相当の時間を要します。消費者の皆さんには、生産者の苦しみを理解していただきたいです。

会長メッセージはJ Aグループのウェブサイト (<http://org.ja-group.jp/message>) に掲載しています。

「食料フォーラム」を開催 11月3日 NHK Eテレ で放送

NHKとの共催イベント「食料フォーラム2018」の1回目を10月1日、東京都内で行いました。テーマは「日本の農産物を世界へ売り込め ～国際基準への対応 いま何が必要か～」。

パネルディスカッションでは、



藻谷浩介さん（日本総研主席研究員）、香坂玲さん（東北大学大学院教授）、榎田みどりさん（農業ジャーナリスト）、尾崎市朗さん（兵庫県J Aたじま代表理事組合長）が、「農業生産工程管理（GAP）」や「地理的表示保護制度（GI）」などを用いることで、国産農産物の輸出拡大につなげる可能性と方策について話し合いました。

番組では、GAP認証を得たJ Aたじまの「コウノトリ育むお米」、GIに登録された「鹿児島^{つば}の壺造り黒酢」の事例が紹介されました。

フォーラムの様子は、11月3日、14時から1時間、NHK Eテレで放送します。

新番組 『おいしさのカタチ』 BSテレ東で放送中

J A全国機関では、消費者に農業に親しみと関心を持ってもらうため、10月からテレビ新番組を始めました。

タイトルは『おいしさのカタチ』。BSテレ東で、毎週木曜日、20時55分から5分間、放送しています。

番組では、フリーアナウンサーの八木亜希子さんが、優しい語り口で、生産者の地道な努力と想いを伝えます。毎回、季節ごとの旬の農産物を取り上げます。10月は、トマト（福島県J A会津よつば）、お米（兵庫県J Aたじま）、ブドウ（長野県J A中野市）、ハトムギ（富山県J A氷見市）を紹介しました。

来年の3月までの半年間で26回の放送を予定しています。

『週刊新潮』で好評連載中の中家会長のコラム「ピンチをチャンスに！」の第19回（10月11日号）、第20回（10月25日号）掲載分は、『月刊J A』のHPからもご覧いただけます。